

## 【コメント（アドバイス） B】（計画 ②）

〈計画シート3-1について〉

戦略目標について、「青少年が社会との関わりを自覚できる」、「家庭、学校、地域の相互協力」を掲げたことで、漠然としがちな具体的イメージと結びつくようになったと思います。

ただし、戦略目標の内容に書かれていることを整理すると、青少年というターゲットに関する目標（「青少年が社会との関わりを自覚できる」、「青少年の健全育成」）、と同目標を達成するための手段（「体制整備」、「家庭、学校、地域の相互協力」、「情報資料の提供、相談体制の整備」）にわけることができますが、前者と後者の結びつきについてもう少し整理すると良かったのではないのでしょうか。

また、「家庭、学校、地域の相互協力」、「情報資料の提供、相談体制の整備」は、「体制整備」を具体化あるいは、方針にあたるので、「体制整備」をどのように図るのか整理してみると、より目標が明確になるように思います。

施策の柱は、県の役割を念頭に置いたものになっており、わかりやすいと思います。

ただし、ジュニア・リーダー研修は、どのように、青少年の健全化に寄与するのでしょうか。これは、戦略目標で掲げた「青少年の健やかな発達」といことと関係があると思われそうですが、両者の関係を明確に意識することで、「青少年の健やかな発達」の中身を別の形で表現できるかもしれません。

〈計画シート3-2について〉

事業評価フロートして、とてもよくできていると思います。

ただし、上記に触れさせてもらいましたように、ジュニア・リーダー研修は、「青少年の健やかな発達」とどうつながるのか、関係がはっきりするとよりよいと思います。

〈計画シート3-2について〉

評価の項目と指標は把握しやすいものが挙げられており、事業の効果や目的達成度を測定しやすくなっていると思われ、多くの地方公共団体の社会教育行政が取り組んでいるさまざまな分野のリーダー育成に関する事業の評価に際しての参考になる点が多いと考えられます。

しかしながら、評価の項目と指標の流れに飛躍があるところもあります。例えば、子ども会や地域行事にかかわって「自分は役に立った」と感じるジュニアリーダー数が増えるとその地域の児童の子ども会等への参加状況が多くなるように示されているように書かれています。どのように役に立ったかという把握も必要でしょうし、児童の参加状況が多くなるためには、「魅力的な行事が行われる」など、児童の参加意欲が高めるため、もっと他の要因の検討も必要だと考えられます。

こうしたフロー図を描くことによって、ジュニアリーダー育成事業そのものの効果が及ぶ範囲を把握することができ、より上位の目標を達成するためにその効果を発展させて次の効果を得るために本当に必要な事業の検討へとつながっていきます。

その点をあらためて確認していただき、今回のフロー図をリライトしつつ、必要な事業の構想にチャレンジしていただければ幸いです。